

# 高橋千鶴子衆院議員、初めて春日井へ 演説会に420人 たけだ、すやま、本村議員も



23日、春日井市で行われた党演説会は420名の参加で熱気にあふれました。高橋千鶴子衆議院議員が春日井市で演説を行うのは初めてで、熊本地震の被災者の支援・復興や、参院選の意義、党の値打ちなどを語り、「政治は変わる」ことを実感できたなどの感想が寄せられました。

国会情勢を語りました。参加者から「力強い演説でよかった。現場に足を運んで国民の声を聞いて国会に反映している裏打ちがあるから力強い活動ができる」「久しぶりの演説会だった。満席でよかった。高橋議員の話はユーモアがある話でよかった」「どの人の話も分かりやすく、とにかく元気が出た」などの感想が寄せられました。

会場で震災支援募金が約20万8千101円、選挙募金が12万6千597円寄せられました。

演説会の後、たけだ候補は、党支部の皆さんと高蔵寺駅で震災支援募金を訴えました。山本亮介豊山町議も参加しました。

## 川根本町20年ぶり演説会 島津・鈴木

鈴木ちか参院静岡選挙区候補の出身地、川根本町で17日、党演説会が開かれ、鈴木候補と島津幸広衆院議員が訴えました。同町での党演説会は約20年ぶり。約60人が参加し、鈴木敏夫町長から「世のため、人のため、川根本町のため、頑張ってください」という激励メッセージが寄せられました。

ツセージが寄せられました。島津議員は「独裁政治と戦争国家への道か、立憲主義をとり戻し、民主主義、平和主義の新しい政治をつくるのが問われている」と訴え。鈴木候補の母親の鈴木多津枝町議、鈴木候補も参院選勝利で政治の転換をと訴えました。

## 熊本地震 被災者支援 新幹線の地震対策 (本村)、川内原発停止(井上)求める

本村伸子衆院議員、井上哲士参院議員は国会で、熊本地震の被災者支援や新幹線、原発問題をたどりました。本村氏は19日の国土交通委員会で、支援物資を被災者に届ける対策や九州新幹線の脱線問題について質問しました。

本村氏は、物流事業者への財政的支援も含め、早急に支援物資が被災者に届く対策を求めました。

また、本村氏は、九州新幹線が、地震自動停止システムが作動しながら、地震で脱線したことについて、同システムが直下型地震では機能しない問題を指摘し、「脱線が起きた場所に、脱線防止ガードはなぜ設置されていなかったのか」と質問。



線が起きた場所に、脱線防止ガードはなぜ設置されていなかったのか」と質問。

国交省の藤田耕三鉄道局長は「今回の場所は設置計画に含まれていなかった。強い揺れが想定される地域を優先的に進め、2017年度までに55キロメートルで設置予定だ」と答弁しました。

さらに、本村氏は、地震対策について、「今回の場所で想定していなかった」とのJR九州の新幹線局長の発言を示し、大地震が頻発する日本では「想定外」という甘い認識を改め、大災害に備えた緊急対策を実施すべきだと主張。リニアを含め新幹線が活断層を通る地域の総点検・改修の必要性を強調しました。

### ◆川内原発停止求める 井上氏 「再稼働の前提崩れた」

井上氏は20日の決算委員会で、稼働を続ける鹿児島県薩摩川内(さつまませんだい)市にある川内原発の停止を



求めました。井上氏は、熊本県益城町で今回記録した1580ガルの揺れは、九州電力が川内原発で想定した基準地震動(620ガル)をはるかに超え、こうした地震は次にどこで起きても不思議ではないと強調。「原子力規制委員会が川内原発の再稼働を認めた前提が崩れている」と述べ、不測の事態に備えて稼働継続の是非を真剣に検討するよう求めました。これに対し、丸川珠代原子力防災担当相は、これまで川内原発で観測されたのは最大12・6ガルで「現状では停止の必要はない」と答弁。井上氏は「今後、どこでも起こりうるという立場で政府が備えなくしてどうするのか」と批判しました。

した基準地震動(620ガル)をはるかに超え、こうした地震は次にどこで起きても不思議ではないと強調。「原子力規制委員会が川内原発の再稼働を認めた前提が崩れている」と述べ、不測の事態に備えて稼働継続の是非を真剣に検討するよう求めました。これに対し、丸川珠代原子力防災担当相は、これまで川内原発で観測されたのは最大12・6ガルで「現状では停止の必要はない」と答弁。井上氏は「今後、どこでも起こりうるという立場で政府が備えなくしてどうするのか」と批判しました。